

本邦ニテハ、多ハ狐狸犬猫ノ類、婦人女子ニ妨ヲナシテ邪祟トナル、或ハ大病ノ後氣血虛乏ノ時邪氣虛ニ乗ジテ入ル也、病者虛羸シ、邪氣勝ツ則死ス、早ク祈テ邪ヲ退クベシ、筑紫ノ方ニハ、河伯ノ邪祟多シ、金銀花ノ煎湯ヲ用テ有神効、或ハ髮切トテ、婦人或ハ童男童女ノ髮ヲ、アタ、カナル風吹來ルト覺テ、結節ヨリ髮ヲフツト落シテ、其跡稠粘テ鳥餅ナドヲ付タルヤウニ成テ、卒時ニ絶死ニ至リ、暫時アリテ甦リ、寒熱往來シ、傷寒ニ類スル病アリ、關東ノ鎌鼬ト云フ惡風ノ類也、小柴胡湯ニ陳湯ヲ合シ、遠志石菖蒲辰砂ヲ加テ用レバ有奇効、周防長門ニハ犬神ト云邪祟、土瓶ト云フ邪祟アツテ狐ツキノ如クニ人ニ害ヲナス、此邪祟ハ甘松香ヲ火ニ燒キ鼻ヲ薰ズレバ、立處ニ其邪退ク也、犬神ト云ハ、犬ヲ殺シテ邪ヲコシラヘタルヲ云、唐土ノ蠱毒ノ類ノ如キ者カ、土瓶ト云ハ、小蛇ヲ土瓶ノ中ニ畜ヘ置云、此兩種ノ邪祟ハ、甘松香ニテ薰ズレバ、其邪立處ニ退ク也、ト周防國八代島ノ住醫、青木道説ト云者、啓益ニ語リキ、啓益本草甘松香ノ條ヲ考ニ、邪祟ヲ避ルノ能アリ、啓益狐付ノ者ヲモ、此甘松香ニテ薰ズルニ其効如神、啓益又青木道説ニ、邪祟ニ金銀花ヲ用ルコトヲ傳フ、青木氏國ニ歸テ、犬神土瓶ノ邪祟ニ金銀花ヲ用ニ其効如神ト、書翰ヲ通テ互ニ謝禮セシ也、邪祟ノ症ト見キハメタルトキハ、狐ツキニテモ、山獠ノツキタルニテモ、猫マタデモ、甘松香ヲ以テ薰ジ、金銀花ノ煎湯ヲ用ベシ、扱又浮圖巫覡ニ命ジテ祈禱スベシ、世間ノ醫師ハ、多ハ丹溪ノ虛病痰病邪祟ニ似タルト云ノ論ヲ確守シテ、眞ノ邪祟病ヲ知ヌ類アリ、故ニ此所ニ委ク辨ジ置也、

〔倭訓栞中編三十〕

おほさき

上州甘樂郡の山中に、熱病のことを、大さき疫病と稱するは、信濃佐

久郡なども同事にて、もとは卑賤の山伏など、京都稻荷にてうけ來といふて、一寸の紙に、狐の像を繪きたるもの、是を大さき使といふ、大さ鼠ほどの生類になり、病家につくなり、彼主の山伏祈らざれば、離る、事なし、此小獸後には多く繁殖して、養ひに迷惑す、今富家にも傳りて有もあ